

なるのは當然であります。それで、労働時間の短縮の問題が起るのです。また今日の制度では労働時間短縮の問題の起ることは已むを得ませぬ。若し今日の制度が悪いとすれば、工場労働が面白くなる様な工夫を講じて貰うより外に道はありません。工場労働を面白くするには、歌と、自由と、衛生と、愛をより多く要求するより外に道はありません。信州岡谷の女工の様に十三時間、固い狭い椅子に縛りつけられては歌も何も出たものではありません。工場の人間化、それは人間が物品を製造して居る所であると云ふ考へより、人間が人間を製造して居るのだから、その生みの母の人間を先づ大事にせねばならぬと云ふ事が解つて来ればならぬのであります。人間は物品のために造られたのではない。物品が人間の爲めに造られたのです。それが今日では凡て逆になつて、商品と工場と機械が人間を壓倒して居りますので、吾等の叫ばねばならぬことは工場を人間化する事です。

組合主義の確立

吾々の運動を危険視する者がある。それが現状維持で満足し、國の死亡率が増し、死産流産が増え、壯丁の素質が悪化しても、資本主義に満足して居らねばならぬと云ふのであれば、天下はひとり資本家と其の家僕には泰平であるかも知れぬが、世界はそれでは治らないのである。

資本家の悪い癖は、一にも二にも國家とか國體とかを擔ぎ出して来て、労働者を壓服させやうとする事である。然し労働者がそんなに非愛國的のものであらうか？我等は壯丁として立ち、職工として國を富まし、國家の人格的墮落を防止しやうと云ふに、それがどうして非愛國的なんだらう？ 資本家の様に貪り呑むものが、口先で愛國を唱へ藝妓を養ひ物價を吊り上げるのが愛國的であつて、労働者のやうに今日喰ふや食はずに労働するものが非愛國的と云ふものであらうか？ つまり胃袋の大きな人が、愛國者で胃袋の小さい人が非愛國者だと云ふのであれば、豚は人間より愛國者であり得ると云ふことであらうか？

日本の國を思へばこそ、その世界的地位を思へばこそ、富豪一人が善くなつても、労働者と民衆がひとり取残されては何にもならぬと思ふから、労働組合を主張し、黄金主義に向つて挑戦するものを非國民扱ひにするならば、それは彼等の勝手である。我等は消激な事を主張するものではない。たゞ人格の自由を主張するだけである。物貨のみを平等に分配せよと云ふ共產主義者でもない。労働者だけが専利しやうと云ふ唯物的社會主義者でもない。我等は労働者の人格は金でも買はれず、貨物として工場内に閉じ込められるものでない。事だけを主張する労働組合主義者である。權力の派閥と、殖民地の略奪は我等はたゞ愉快に生産し、妥當な

分配に預ればそれで善いのだ。それを組合が國家の敵である様に眼むのは、眼む人が悪いので、それは御苦勞であるけれども、人類の生命に就て全く考へない人の淺見である。吾々も雖も民族的自負心と日本の精華とを一日も忘れるものではない。併し日本の産業組織が徳川時代の様なものでそのまゝで居るならば高山彦九郎の様な忠勇義烈な思想で始終し得るが、今日の三井三菱鈴木の様には、國家内に産業國家を組織するならば、報國の觀念は新しい形式を取らねばならぬ。即ち黄金の支配を脱破するのが第一の急務であると共に、日本人口の二割五分を占めて居る純粹労働者千四百二十五萬人とその家庭を入れて、人口の七八割を含む今日の世帯級級の向上の爲め、人格組合を組織せねばならぬ。そうしなければ、自治的精神とは假りの名であつて、實は黄金の支配する世界となるのである。それで吾々は國を愛し、民族を思ふ熱情より昔西郷隆盛が維新の熱情に燃えたと同じ感情を以つて、この組合運動に盡すのである。今や日本では混沌たる組織に向つて、一つの組織を具へる必要が強く感ぜられて来た。併し床次氏の様に縦の組合だとか横の組合だとか、云ふて居ては、果して世界の文化に立ち遅れる事はないであらうか？ 人は云ふ、日本には縦の組合だとか横の組合であらうと。それは必ずあらう、日本人の民族心理は、歐米諸國の民族心理と違つた所があるから、人格組合と本組合組織が特別にあらうと。それは必ずあらう、日本人の民族心理は、歐米諸國の民族心理と違つた所があるから、人格組合として見たる労働組織がその民族心理を反映しないと云ふ譯には行かないから。然し茲に考へなくてはならない事は民族心理が異つて居るから組合の形式が全部違ふだらうと云ふ豫測である。即ち床次氏の様に主従關係と温情主義の存する處が幾分あるから、縦の組合のみで、足りるであらうと考へるものもあるがそれは大きな間違で既に産業組織と機械文明が全く西洋を模倣したものであつて、横の組合は無視して、縦の組合のみで行かうとしてもそれは不可能な事である。産業進化の法則はそんな杜撰な考へで支配出来るものではない。いやでも、應でも横の組合が資本主義を脅かす時が来るのである。併し之が資本主義を脅かす様になる時に慌て、社改良を唱へても遅い。西洋の失敗が遂に日本の失敗となり、取り返しのつかぬ憂目を見ないとも限らない。それではつまらぬから、西洋の歴史を長年探り返す代りに、直ちに産業自治の世界に移り、人格組合の實績を擧げ、國威を發揚すると云ふことは、先の見えた人の當然考へつく運命であると私は思ふ。

二、勞資の感情的昂奮

是れより先き大阪に於ける勞資の爭議白熱するや、六月八日、同十二日、十八日、二十六日と四回